

〔研究ノート〕

54 年度共通一次試験フランス語問題について

柿 山 隆

1・1 実施前から関係各方面に種々の反響を巻き起こしながら兎にも角にも第1回国立、公立大学共通一次試験は54年1月14、15の両日実施された。共通一次試験の実施が決定されるに及んで、その是非をめぐる論議の中で共通一次試験の二つの趣旨が浮き彫りにされた。一つには試験日を違えることによって生じると見られた国立大学一期校と二期校間の格差の是正であり、他は従来の大学入試問題に時として見られた奇問、難問を回避し、高等学校での学習内容の基礎的、一般的学力を問うことによって大学入試問題に伴う受験生の負担軽減を狙うということであった。

大学共通一次試験とは別に、以前から文部省の意向は、国立、公立、私立を問わず、フランス語の大学入試問題については、語彙の範囲は基本語彙5,000語の枠を越えないことであるのは承知の通りである。然るに、フランス語で受験可能な大学の入学試験問題を検討してみると、この原則に則った入学試験問題は比較的少数のように見える。中には、この原則を知らないかの如くに、むしろ年を追って難化しているような兆さえ見えるものもある。大学でも教えていないような内容を高等学校卒業の受験生に問うことは如何なものだろうか。

1・2 ともあれ、共通一次試験の狙いの一つである一期校、二期校間の格差と是正が達せられたか否かは今後の分析を待たなければならないが、ここでの検討の対象ではない。ここでは、もう一つの狙いである、入学試

験問題に於ける奇問、難問を回避し、高等学校での学習内容の基礎的、一般的の学力を見るということが、フランス語の問題に於て、内容的に妥当であったか否かを検討したい。フランス語基本語彙5,000語と言っても考え方の相違があるが、基本語彙の一応の基準として、Dictionnaire fondamental¹⁾、Dictionnaire du vocabulaire essentiel²⁾を用いた。

2・1 共通一次試験フランス語問題の内容が初頭の趣旨に沿うものであるか否かの検討に当って、使用語彙の範囲、語句の意味、表現の意味、発音の問題、thème、設問文の点から分析し、それらの問題点を取りあげてみたい。

2・2 共通一次試験フランス語問題に用いられている語句の中に、上述の二つの辞書、DF³⁾、又は DVE³⁾ にない語句が27ある。それは以下の通りである。

| ⁴⁾ I | DF | DVE |
|------------------------------------|--------------------|--------------------|
| balbutier | ⁵⁾ — | — |
| confidentiel | — | — |
| vraisemblable | — | — |
| III | | |
| valoir la peine de tinf | — | ⁶⁾ ○ |
| maladresse | — | ○ |
| servir de..... | — | ○ |
| IV | | |
| à bon chat, bon rat | ○ | — |
| bien faire et laisser dire | ○ | — |
| mettre à profit | — | — |
| les murs ont des oreilles | — | — |
| Paris ne s'est pas fait en un jour | — | — |

V

| | DF | DVE |
|------------------|----|-----|
| importun | — | — |
| incompréhensible | — | ○ |
| VI | | |
| accaparer | — | — |
| accueillant | — | — |
| se dégager | — | — |
| habitable | — | — |
| métropole | — | ○ |
| restreint | — | — |
| séduisant | — | — |
| VII | | |
| assimiler | — | ○ |
| illimité | — | — |
| limité | — | — |
| relativement | — | ○ |
| signification | — | ○ |
| VIII | | |
| beurré | — | — |
| tartine | — | ○ |

フランス語の大学入試問題の語彙の枠が5,000の基本語を越えず、共通一次試験が基礎的、一般的学力を問うのであれば、共通一次試験の語彙の枠はさらに絞った範囲であるはずである。にも拘らず基本語彙の枠を越えると判断される語句が上記の通り可成の数にのぼるということは、共通一次試験の趣旨からして疑問が残る。

2・3 語句の意味の対比を問う問題で *le bois vert/le bois sec* (生木/枯木) がある。確かに、*vert* にしろ *sec* にしろ *fréquence* の高い語句ではある。只、例えば、*vert* について言えば *les feuilles vertes* (緑の木の葉)

のように「緑の」意味で用いられる場合が一般的だろうし、*sec* にしても *l'air sec* (乾燥した空気) などのように「乾燥した」の意味で多くは使われるだろう。又、*langue littéraire/langue courante* (文語/日常語)⁸⁾ は言語学を専攻している学者にとっては *niveau de langue* の相違の表現でしばしば目にする語句である。しかしながら *niveau de langue* の観点から言えば、これらの語句は *français fondamental* (基礎フランス語) のカテゴリーではないばかりではなく言語学には門外漢に取っては馴じみの薄いむしろ *mot technique* (技術用語) の部類だろうし、*langue particulière* であって一般性を欠くと言うべきだろう。

2・4 文全体の意味を問う問題文⁹⁾に、*A bon chat, bon rat* (常に手ごわい相手はいるものだ)、*Bien faire, et laisser dire* (人が何と言おうと義務は果すべきだ)、*Il faut qu'une porte soit ouverte ou fermée* (どちらかに決めなければならない)、*Les murs ont des oreilles* (壁に耳あり)、*Paris ne s'est pas en un jour* (パリは一日にしてならず) がある。いずれも諺である。確かに *bon, chat, rat, etc* の語句の一つ一つを取ってみれば平易な語句である。諺の一般的特徴はそれが用いられる文化的背景を知って初めてその意味が理解されるものであり、この種の表現はその表現特有の比喩的意味を知っているか否かがすべてである。従って、語学的に可成りの力をもった人にも、字顔はともかく、それが真に意味する内容は理解され得ない場合だってあり得るのである。諺、格言などの表現は文学的教養の観点からすれば興味をそそるものがあるが純粹に語学的見地からすれば、一般性にも応用的発展性にも欠ける。従って語学の問題というよりはむしろ文学的教養のカテゴリーに属するものであろう。

2・5 発音の問題¹⁰⁾ *net* [nɛt], *sud* [syd] の *t, d* の語尾子音、*tramway* [tra-mwe], *wagon* [vagō], *whisky* [wiski] の *w* の音を識別させるのがある。語尾子音の発音については *actif* [aktif], *motif* [mōtif], *capitif* [kaptif] etc, *seul* [sœl], *journal* [zurna], *banal* [bana] etc, *acteur* [aktœ:r], *jour* [zu:r], *pour* [pu:r] etc のように語尾子音の発音の一般性のあるものは語尾の *-f,*

-l-, -r である。語尾子音 -d, -t は *différend* [diferã], *nord* [nɔ:r], *pied* [pje] etc, 或いは *état* [eta], *mot* [mo], *petit* [pɛti] etc のように発音されないのが一般的なのであり, *net* [nɛt], *sud* [syd] のように発音されるのは例外に属するのである。フランス語においては w は [w] 又は [v] と発音される。本来的に表記上 w を含む語はフランス語に存在しない。表記上 w を含む語は外国語からの *mot d'emprunt* (借用語) であり, その多くが英語からである。発音の点からは w は ¹¹⁾ *week-end* [wikend], ¹²⁾ *western* [western], ¹³⁾ *tramway* [tramwɛ] etc のように [w] と元の音が保存されて発音されるのが大勢であり, ¹⁴⁾ *wagon* [vagɔ̃] のように [v] と発音されるのは音声的フランス語化された結果なのである。interview [ɛ̃tɛrvju] のようにフランス語から英語になって, 更にフランス語になった例もある。いずれにしても表記的に w を含む語は言わば本来フランス語でない *mot d'emprunt* (借用語) であり, 外国語から借りて来た語である。本来的にフランス語でない語はフランス語での音声的不安定要素を含んでいる。従って *mot d'emprunt* (借用語) を発音の点から取り上げる妥当性については疑問の余地がある。同一子音が一般性をもって発音されるものに s がある。母音+s+母音では *saison* [sezɔ̃], *maison* [mezɔ̃], *poison* [pwazɔ̃] etc のように [z] と発音され, 母音+ss+母音では *poisson* [pwazɔ̃], *grossier* [grosje], *amasser* [amase] etc のように [s] と発音される。又, 子音に限らず *imm-*, *im-* は *immédiat* [imedja], *innocent* [inosã] etc のようにそれぞれ [im], [in] と発音されるし, *im+m* 以外の子音, *im+n* 以外の子音では *imparfait* [ɛparfɛ], *infini* [ɛfini] のように, *im*, *in* はいずれも [ɛ̃] と発音され, *m*, *n* は音声的には出て来ない。*immangeable* [im(ɛ̃)mãzabl], *immangeable* [im(ɛ̃)mãkabl]} などは [in] と [ɛ̃] の選択の余地があるがいずれも例外的である。このように, 発音の問題にしても一般性のあるものの中から出題すべきではなかろうか?

2・6 ¹⁶⁾ *thème* は「こちらの蛇口はお湯が出る。

(1) Avec ce robinet, on sort de l'eau chaude.

(2) Ce robinet donne de l'eau chaude.

(3) De ce robinet, on fait de l'eau chaude.

(4) Par ce robinet, on met de l'eau chaude.」

のように問題文の日本語の内容を正しく表現しているフランス語文を選択肢の中から選択させる形で出されている。その中で次のような問題がある。¹⁷⁾

「わたくしは時計を盗まれた。

(1) J'ai été volé ma montre.

(2) J'ai laissé voler ma montre.

(3) Je me suis fait voler ma montre.

(4) Je me suis volé ma montre.」

正解は言うまでもなく「(3)Je me suis fait voler ma montre.」である。確かに se faire voler+SN (SN を盗まれた¹⁸⁾) の構文は syntaxe の点からは正しい。ただし、表現の一般性、fréquence からすれば、se faire voler+SN よりも on+人称代名詞(間接目的語)+voler+SN の方が上であるし、日常会話では、前者で表現することは稀で、多くは後者で表現されるだろう。従って、選択肢中のフランス語文も Je me suis fait voler ma montre の代わりに On m'a volé la montre とすべきであったろう。尚、J'ai été volé ma montre は syntaxe の点から誤りであり、(4)の se voler はフランス語ではないこともつけ加えておこう。語学教育の立場からすれば特に thème などのように適切なフランス語文を選択させる場合、選択肢に、明らかにそれ自体誤ったフランス語文を採用するのは疑問である。

2・7 設問文に¹⁹⁾

「次の問い(問1～5)の文において、主語を複数形にすると、それまで文中に含まれていなかった子音があらわれる。その音を含む語を、それぞれ(1)～(4)のうちから一つずつ選べ。

問1 Il conduit très prudemment.

① achat ② minute ③ presque ④ vase」etc.

とある。設問文の中身が先ず正確な動詞の活用とその活用形の発音、選択

肢の語句の正確な発音という三重の知識を求めているだけに疑問文も複雑になったと思われる。従ってこの種の設問文には、設問の意味を理解させる一助として例文を付すべきであろう。

3・1 共通一次学力試験の趣旨からすれば、フランス語の問題は、予想以上に難しい印象を与える。大学入試センターの発表によると、フランス語の成績は、平均点 116.7 (200 点満点) である。英語の平均点は 125.5、ドイツ語の平均点は 121.9 で外国語全体の平均点は 124.7 である。この数字はフランス語が一番平均点が低かったことを示している。受験者層の質の問題もあって、絶対的なことは言えないが、フランス語の問題が他の 2 外国語の問題に比して難しかったと言うことを、この数字は或程度物語っているのではないだろうか。

3・2 先般の共通一次学力試験でさらに明らかになったことは、フランス語による受験者総数 192 名、その中フランス語を第一外国語として学習した受験者の数は、日本の高等学校でのフランス語履修状況から見て、約その四分の一程度と推定される。従って残りの受験者は、高等学校に入ってフランス語を始め、しかも第二外国語として学んだか、その他の施設或いは海外でフランス語を学んだ受験者と考えられる。

3・3 従って、フランス語受験者層のフランス語学習期間と語学力のレベルを十分に考慮した試験問題が望まれる。更に、基礎的、一般的学力を問うという共通一次試験の趣旨を合わせ考えると、基本語彙の範囲は忠実に守らねばならないし、語彙の意味、表現の意味、*thème* で用いられる表現、発音のために用いられる語句は基礎的でなければならないし、一般性のあるものでなければならない。

注

- 1) G. Gougenheim, Dictionnaire fondamental, Didier.
- 2) G. Matoré, Dictionnaire du vocabulaire essentiel, Larousse.
- 3) *DF* は Dictionnaire fondamental の頭文字。

DVE は *Dictionnaire du vocabulaire essentiel* の頭文字。

- 4) I, II, III, ……は共通一次試験フランス語問題の番号。
- 5) 一印は辞典にないことを表す。
- 6) ○印は辞典にあることを表す。
- 7) 共通一次試験フランス語問題V問3。
- 8) *Ibid.*
- 9) *Ibid.*, IV問1～2。
- 10) *Ibid.*, I.
- 11) 1906年, 英語から (*Pierre Guiraud, Les mots étrangers, Que sais-je (presses universitaires de France)*)
- 12) 1950年, 英語から (*Larousse, Lexis*)
- 13) 1818年, 英語から (*Larousse, Lexis*)
- 14) 1678年, 英語から (*Larousse, Lexis*)
- 15) 1884年, 英語から (*Larousse, Lexis*)
- 16) 共通一次試験フランス語問題VIII。
- 17) *Ibid.*, VIII問3。
- 18) SN は *syntagme nominal* (限定詞+名詞) の略。
- 19) 共通一次試験フランス語問題I。